

# おひさま サタダ

2014



vol.138

7



## はいっポーズ!

《上常呂地区・広郷》

宮本みなみさんと陸駆くん

(紹介は2ページです)

特集

- 新規就農者  
 激励状授与式と交流研修会開く
- 快挙!!石川修さん農林水産大臣賞を受賞



# 季節の薫り メロンの収穫



オホーツクブルーの空の下、あま〜い香りの漂うビニールハウスで、赤肉ネットメロン「ルピアレッド」の収穫作業が早朝から行われています。

北見地方特有の「昼夜の寒暖差の大きい気候」と恵まれた条件からつくられ、加温ハウスでじっくり育てあげた今年のメロンは、ハウス内の温度管理に努め、糖度が16度と甘さも十分で、玉の肥大、網目とも上々の仕上がりました。



この地域で愛情たっぷりに育てたメロンは、果肉からあま〜い香りとじゅわあ〜と果汁がしたり、果肉を頬張ると口の中にメロンがいっぱいになります。

高級フルーツの代名詞と言われ、栄養価も高いメロン。カロチンやビタミンCなどのビタミン群や、カリウムなどミネラル成分も豊富に含まれています。

(土屋 正樹)

6月19日の早朝、北見地区・合同会社 角農産のハウスで撮影。約900坪のハウス面積でメロンを栽培しています。なお、右下段の写真は翌日の20日、北見地方卸売市場で行われたメロンの初競りを撮影したものです。

## 表紙紹介

### 思いやりのある子に

6月30日、約束の時間に宮本さん宅を訪ねると、お母さんに抱っこされた陸駆さんと、ご家族の皆さんが迎えてくれました。

お父さんの「人見知りするかも」との心配をよそに、終始にこにこの笑顔で応えてくれた陸駆くん。一人で歩けるようになり、お茶の間や台所を元気に歩きます。最近ソファの上でみたり、ボタンを押してみたりと色々なことに興味津々。取材中も、コーヒーマーカーのボタンを押してお父さんにコーヒを入れていました。好きな食へものはバナナテレビでは「おかあさんといっしょ」や「天気予報」がお気に入りです。

最近はお父さんが仕事に行くときには泣いてしまうこともあるという陸駆くん。そんな陸駆くんにお父さんとお母さんは「健康で思いやりのある子に育ってほしいです」と優しく話してくれました。

(横田 佳織)



【ご家族紹介】  
前列左から〜お母さんのみなみさん(28)、陸駆くん(1歳2ヶ月)、お父さんの裕一さん(27)  
後列左から〜おばあちゃんの鈴子さん(57)、おじいちゃんの一さん(65)  
宮本さんは水稲、玉葱など約17畝を作付けしています。

## もくじ CONTENTS

○おひさまサラダクッキング………20	○JAきたみらい ホットライン東西南北………8	○ほのぼの広場………12	○表紙紹介………2	○季節の薫り………2	○新規就農者 激励状授与式と交流研修会開く 特集①………4	○快挙!! 石川 修さん 農林水産大臣賞を受賞 特集②………6
「さっぱり親子のちらしずし」 「夏野菜のからし酢みそ添え」	○JAからのお知らせ………16	・きたみらいのホームページ ・なかよし夫婦 ・わが家のアイドル ・ブリティーウーマン ・大きくなったら ・元気な先輩 ・思い出の写真 ・まちがいきがし ・読者の声				

# 新規就農者に激励状を授与

きたみらい管内に6人が就農

6月20日に激励状授与式と北見地区新規就農者交流研修会が行われました。食と緑と水を守る職業である農業。これを「自分の職場」として、高校・大学などを卒業して就農された方、あるいは他産業に従事後、次のステップに進むための職場としてUターンされた方、いずれも農業への情熱は同じです。農業に意欲を持って取り組む青年に、毎年、JAグループ北海道五連から激励状が贈られます。



▲激励状を受け取る箱木祐亮さん（端野地区）

北海道の農業・農村を担う一員として、新しく農業に意欲を持って取り組む青年に毎年、JAグループ北海道五連（中央会・ホクレン・北信連・共済連・厚生連）会長連名の激励状と記念品を贈呈しています。本年度は全道JAで438人の青年に授与されました。当JAでは新規学卒者2人、Uターン4人の計6人に授与されました。



▲激励の言葉を贈る西川組合長

また、「大きい夢を抱いて、この農業界に大きく羽ばたいて欲しい」と激励の言葉を贈りました。その後、JAグループ北海道五連の使命と事業内容を説明した後、西川組合長から一人ひとりに「おめでとうございます」と声を掛けて激励状を手渡すと、新規就農者のみなさんは「ありがとうございます」と応えていました。

端野地区協和の木村公輔さんは、「組合長の激励の言葉を頂き心が震える思いです。国民の健康と食の安全を担っていく責任をより一層強く感じました」と話してくれました。



▲授与式に出席した5人の就農者とJAきたみらいの役職員

# 若いうちに色々な経験を

新規就農者交流研修会で  
和崎陽一氏講演



オホーツク管内の北見市、訓子府、置戸町の就農3年目までの若手農業者を対象にした北見地区新規就農者交流研修会が6月20日、JAセントアイ事務所で開催し56人が参加しました。

1市2町とJAきたみらいなどで構成している北見地区農業振興連絡協議会の主催で、農業の知識研鑽及び情報交換などを図ることを目的として行われています。主催者を代表して櫻田真人北見市長より、「この研修会が今日の農業の発展に繋がると期待している。大先輩からの知識と

技術を習得して、今後の農業人生に役立ててほしい」と挨拶。

講師には和崎陽一農業士会会長を招き、「新規就農者の皆さんに期待すること」と題して講演しました。和崎さんは平成9年に農業士、平成23年に指導農業士に認定され、平成25年より現職に就かれ、農作業の合間を縫って若手農業者への指導や、農業の振興に努められています。

和崎さんは「皆さんと共通の時間を過ごしたい。やればできるかわりの農業、PC活用術、農業経営簿記、経営改善について伝えたい」と自身の経験について笑いを交えながら講和しました。

お題の絵を書く心理テストを用いた性格判断からは「長所と短所は、見方を変えると同じことです。自分は短気ですが、言い換えると1つのことにトコトン頑張ることができると色々な角度から見ることが大事」と話されました。

また、「若いうちに色々な経験を、自ら顔を出してチャレンジしてほしい。一人では無理なこともあるので二人三人と仲間を作って、活動の場をどんどん開拓して欲しい」とエールを送りました。

北見地区新規就農者交流研修会



▲和崎陽一氏を囲んで記念撮影



▲主催者挨拶を行う櫻田北見市長



# 特集

## 快拳!!

# 石川 修さん (訓子府町駒里)

# 「虎豆」で「農林水産大臣賞」を受賞

このたび、全国豆類経営改善共励会が開かれ、当JA管内訓子府町の石川修さん(37)が「小豆・いんげん・落花生等の部」で、農林水産大臣賞を受賞しました。石川さんの日頃の問題意識と作物観察を通して、創意工夫と研究の成果から生まれた実践技術の賜物であり、名誉ある受賞を称えたいと思います。

## 難関を制し、最高峰を射止める!!

JA全中と全国新聞連が主催、後援に農林水産省JA全農、日本豆類協会は6月18日、第42回全国豆類経営改善共励会の表彰式を東京で開きました。豆類の栽培で多収・高品質化に取り組み7個人と5団体を表彰し、「小豆・いんげん・落花生等の部」で「虎豆」を作付けする訓子府町の石川修さんが農林水産大臣賞を受賞しました。全国から138点の応募があるなか、難関を制し、北海道から唯一、最高峰の大臣賞を射止めました。全中の萬歳会長は「国産豆類のさらなる生産振興に向けて、地域農業のリーダーとして、今後も活躍してほしい」と大きな期待の言葉を寄せました。

## 第42回 全国豆類経営改善共励会 表彰式

主催 JA全中 JA新聞連 後援 農林水産省 JA全農 (公財)日本豆類協会



▲農林水産大臣賞を授与される石川 修さん(左) 東京にて



全中の萬歳会長は「国産豆類のさらなる生産振興に向けて、地域農業のリーダーとして、今後も活躍してほしい」と大きな期待の言葉を寄せました。

## 「研究」と「創意工夫」 技術力が実を結ぶ

### ○適正輪作で 高生産性を実現

虎豆を含めた豆類作付けによる適正輪作体系を確立することで、すべての作物で安定した高収量を実現しています。

種子馬鈴しょの前作に豆作を導入することで、「いも肌」の良い種いもが生産でき、地域の高品質馬鈴しょ生産に大きく貢献しています。

### ○高品質豆類 生産に向けて

・手竹間隔(株間)を広げることで、次のメリットを確保しています。(畑作専門部の実証試験で確認)

### 「共励会」審査委員長の選評

石川氏は、家族経営で虎豆作付け1.8%、収量は450kg/10aと道平均の2.6倍、276kgも多く極めて高収。過去3カ年を通じて多収を挙げている。

上位等級比率91%。地域の基幹となる馬鈴しょ→秋小麦→てん菜の後に豆類を栽培する4年輪作で、麦わらと交換して酪農家から入手した堆肥は小麦作後に2トンを施用している。圃場副産物の有機物管理は輪作体系全体で行っている。

労働時間は手竹さし作業を機械化するなど、高級菜豆としては少ない。出品豆類で高い農業所得を挙げた。(共励会 成績概要より)

- ①粒大を安定的に確保できる。
- ②通気性が向上し、病害虫の発生軽減および農薬使用回数を軽減できる。
- ③莢のムシが少なくなり、腐敗粒等の規格外品が減少する(製品率が向上する)
- ④手竹本数が減り、購入費や労働費の削減につながる。
- ・根切り作業は、熟莢率と上位節の子実充実度をしながら判断し、子実の肥大を高めています。
- ・基本技術の励行に努め、徹底した生育観察、土壌診断に基づく圃場管理、気象条件に合わせた適期作業を実施。近年の天候不順による厳しい栽培環境においても、安定した高収量を実現しています。
- ・集中豪雨の対応に向け、麦作後の暗渠整備のほか、秋にはサブソイラーで心土破砕を施工。春にも畑の状況を確認し、水はけの悪いところに心土破砕を施しています。石川さんは「排水性だけでなく、根張りの向上や地温上昇にもつながる」と話しています。
- ・干ばつの対応には、従来、置き肥をしていたが雨が降らないと肥料成分が溶け出しにくく、肥料

### 基幹作物の単収 (単位: kg/10a)

	石川修さん				25年産 訓子府町平均
	23年産	24年産	25年産	3カ年平均	
秋小麦	678	861	753	764	533
てん菜	5,750	8,440	6,965	7,052	5,283
馬鈴しょ(種子)	3,943	3,098	3,309	3,450	2,650
虎豆	374	※①300	※②450	375	※③174

※①24年2畝のうち1畝廃耕、※②25年深播きで対応  
※③虎豆の単収は農林水産省作物統計より、北海道平均を使用

### 「全国豆類経営改善共励会」とは

国産大豆、小豆・いんげん、落花生などの生産振興を図るため、昭和47年より実施、今年で42回を迎えました。共励会の目的は、豆類生産における①実需に見合った生産加工による付加価値化②栽培技術の向上③土地利用の高度化④輪作体系の定着化で技術面、経営面等を審査の対象としています。25年度の応募総数は、全国から138点(大豆経営の部3点、大豆集団の部3点、小豆・いんげん・落花生等の部3点)の入賞者・団体を決定しました。

4月に都道府県審査、ブロック審査を経て、5月16日に全国審査会を開催し、農林水産大臣賞、生産局長賞など12点(大豆経営の部6点、大豆集団の部3点、小豆・いんげん・落花生等の部3点)の入賞者・団体を決定しました。

### 石川 修さんの横顔

- 家族構成 本人、妻、子供3人、両親、祖母
- 経営状況(25年度)
  - ・経営形態 畑作専業 ・作付面積 19.5%
  - 秋小麦4.7%、豆類3.3%(小豆・虎豆・紫花豆)、甜菜4.9%、種子馬鈴しょ4.4%、スイートコーン2.2%
- 地域の農業活動等
  - ・JAきたみらい青年部訓子府支部畑作専門部長
  - ・種子馬鈴しょ検査補助員
  - ・平成24年度北海道高品質てん菜生産出荷共励会優秀賞受賞
- 前職はレストランのシェフ
  - ・前職の経験を生かし、農繁期には虎豆をはじめ地元農産物を用いた料理を振る舞う「ピストロKunneppu」のイベント代表を務め、消費拡大に意欲的。料理教室の講師も担当。

## 地域農業へ貢献 指導力を発揮

効果が十分に発揮されないことから、昨年は葉面散布に切り替えました。石川さんは「開花初めの7月中旬に高温になることが多いが、葉面散布剤の効果で花落ちも少なくなつた」と手応えを実感しています。

・堆肥の散布は、豆類作付け前には行わない。タネバ工による出芽率低下や生育コントロールを難しくし、収量・品質が安定しないことが要因。堆肥の散布は、輪作体系全体で行っており、豆類の安定多収に結びつけている。

(以上網走農業改良普及センター 荒木専門普及指導員作成の推薦調書から引用)

「虎豆」は、町の特産品に指定されているものの、手竹さし作業やお積み作業などに労働時間を要するため、地域の作付面積は減少傾向にあります。しかしながら、石川さんは父親の代に「竹さし機」を導入したことで、労働負担の軽減を可能にしました。さらに支柱(手竹)の結束に稲わらを用いていたが、現在は結束バンドを応用することで、作業能率を高め、結束を強くするなど、大幅な省力化につなげています。

「産地維持のため、虎豆の栽培はこれからも続けていきたい」と話す石川さん。

地域のJA青年部員と連携した実証試験を継続して設置。栽培技術上の課題解決に向けた調査研究に熱心に取り組み、技術力向上を図っています。こうした取り組みは地域の農業振興にもつながっており、今後の更なるリーダーシップ発揮が期待されることです。

**温根湯**

**紫花豆の竹さし作業を体験**

～温根湯中学校1年生  
14人が参加～



▲竹さし作業を指導する参加者のみなさん

温根湯中学校の1年生14人は6月20日、温根湯地区の試験圃場40<sup>㍓</sup>で、高級菜豆『紫花豆』の竹さし作業を体験しました。同校では食農教育の一環として、全国一の生産量を誇る温根湯特産品の花豆栽培の作業体験を授業に取り入れています。

作業の指導にあたったのは昭栄地区の大邑和治さんと有志10人の組合員さんで、今年で5年目の取り組みになります。

初めに、同校のPTA会長も務める大邑さんから花豆栽培について説明を受け、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。次に、竹をさすグループと竹を縛るグループに分かれ、黙々と作業をこなし約7000本の竹をあっという間の3時間程でさし終えてしまっていました。

作業を終えた生徒たちは「とっても疲れました」と口を揃えながらも、食料を作る農業の大切さや農作業の尊さを感じ、みんなさわやかな笑顔がこぼれていました。

(土屋 正樹)

**相内**

**きれいな花壇が完成**

～女性部花壇作りに  
部員13人が参加～



▲手際よく植えていく部員のみなさん

女性部相内支部（森谷美佐江支部長）は6月17日、相内地区事務所前の花壇作りを行い、部員13人が参加しました。最初予定していた13日が悪天候だったため、延期しての開催となりましたが、多くの部員が参加。曇り空ということもあり、程よい気温のもと、手際よく進み、あっという間にきれいな花壇が完成しました。

植えた花は「マリーゴールド」「ブルーサルビア」「白妙菊」の三種類で、除草作業も交代で行い、9月まで相内地区事務所前の国道を彩ってくれます。

また、相内地区は家の光大会で賞を受賞するほど、花壇に力を入れており、美園・豊田・本沢会館の花壇や、部員宅の前には、こだわりの花壇が目見えます。ぜひご覧になってみてください。

(丸山 恵理)



▲水田の中を自由に動き回るホバークラフト

**作業の効率化に  
関心集まる**

**上常呂**

～ホバークラフト実演会で  
薬剤散布を体験～

上常呂地区では6月4日、(株)ハタがRCホバークラフトの実演会を行いました。

同地区広郷の酒井秀徳さんの水稲圃場に耕作者など15人が集まり、担当者から説明を聞いたあと、除草剤散布作業を見学しました。この日初めてホバークラフトでの作業を見た参加者達は、60<sup>㍓</sup>の圃場を10分もかからずに散布する様子に驚きを隠せないよう、熱心に質問が出されました。

実演後は希望者が自らリモコンを握り、初めての操作に悪戦苦闘する姿に笑いが起こるなど、和やかなムードのなかで収穫期へ向けての意気込みなどが語られました。

上常呂地区では、水稲約160<sup>㍓</sup>の植え付けが終了しており、収穫までは防除作業など、気の休まらない期間が続きます。

(植山 里子)

**置戸**

**「おいしくなあれ」と園児の声**

～食育活動に  
部員8人が参加～



▲園児らに植え付け指導をする部員のみなさん

J Aきたみらい青年部置戸支部農産部会（中川隆支部長・伊東憲一農産部会長）は、6月10日に置戸町勝山ふれあい農園で、認定こども園置戸町こどもセンターどんぐりの年長組の園児らを対象に食育活動を行いました。園児は馬鈴薯とスイートコーンの植え付けを楽しんだ様子でした。

今年から取り組み始めたこの事業は昨年夏に中川支部長が園児らにスイートコーンの収穫を体験させたことがきっかけ。中川支部長は「作物の植え付けから収穫を体験することで、育てる手間や食へる喜びを知ってもらいたい」と目的を話します。伊東農産部会長は「自分で育てれば美味しく感じる。最近は加工品販売が多く元々の作物を知らない子供が多い。原料がどう作られるのかも知ってほしい」と食育活動に期待を寄せています。

(山内 庸平)

端野

よりよい 玉葱を

～晴天のなか 95人参加～



▲猛暑のなか田中専門普及員の説明を聞く参加者

端野町玉葱振興会（古屋和徳会長）は6月3日に玉葱青空教室を開催しました。当日3地区に分けて行われた教室には、晴天のもと87戸・延べ95人が参加しました。

この日の北見の最高気温は37度まで上がり、建物の日陰や屋内にて、水分補給をしながらの講習会となりました。

教室では網走農業改良普及センター田中理恵専門普及員より、本年のこままでの気象経過と玉葱の生育状況について、除草剤使用上の注意点や、玉葱の苗床管理、6月の病害虫防除対策についてなど様々なことを学びました。

参加者からはよりよい玉葱を作ろうと質疑応答も活発に行われ、講師の説明に耳を傾けていました。

同振興会では7月と8月にも青空教室の開催を予定しています。

（高田 陽介）

北見

地元の 玉葱圃場を見学

～三輪小3年生 90人が参加～



▲圃場で西若さんの話を興味深く聴く児童たち

北見地区・三輪の西若喜代規さんの圃場では6月26日、三輪小学校の3年生約90人が玉葱の生育の様子を見学しました。同校の3年生は、食農教育の一環として、年に数回西若さんの圃場を訪れています。

児童たちは3つのグループに分かれ、西若さんとともに玉葱が移植された圃場を見学しました。「玉葱の皮は何枚あるの?」「一日に何個くらい植えるの?」「一日に何個くらい植えるの?」など、いくつもの質問を西若さんに寄せていました。

圃場を見た後は、倉庫内にある移植機や収穫機などの機械を見学。玉葱の播種から収穫までの流れについて説明を聞きながら、機械に興味深く見入っていました。

今後児童たちは、9月中旬に西若さんの圃場で玉葱の収穫を体験する予定です。児童の一人は、「また収穫に来ることができて楽しみ」と嬉しそうに話していました。

（横田 佳織）



▲かまぼこ作りをする会員のみなさん

留辺薬 ダイナミックな 自然を感じる

～フレミズ紋別市に 日帰り研修～

きたみらいフッシュユミズ留辺薬支部（庄司明美支部長）は、6月12日、紋別市に日帰り研修を行い、会員5人が参加しました。

まず初めに、出稼水産株式会社でかまぼこ作り体験を行いました。ここでは、自分好みに具材を選び、すり身に混ぜ合わせ、オリジナルのかまぼこを作成。出来上がったものは、その場で揚げてもらい、揚げたてをいただき、残りはお土産に持ち帰りました。

その後、マルカイ水産で炉端焼きの風食を食べ、紋別の海の幸に舌鼓。

そして、最後に流水科学センターGIZAを見学。巨大な全天周映像「白い海」を鑑賞したり、マイナス20℃の世界を体験するなど、紋別市のダイナミックな自然を感じられる研修となりました。

（丸山 恵理）

訓子府 母ちゃんパワー全開で 大歓声

～女性部置戸支部と 合同運動会～



▲じゃんけん大会に盛り上がる参加者のみなさん

女性部訓子府支部と置戸支部は6日、女性部運動会を訓子府町スポーツセンターで行い、訓子府支部90人、置戸支部11人の合計101人が参加しました。

2チームに分かれての対抗戦で全10種目を競い合い、農作業で培った「母ちゃんパワー」を発揮。24人が手をつなぎフラフラップを通していく「リングリング」では、体を大きく上下させ、両チームとも抜群のチームワークをみせました。アツという間に輪を通していく白熱のレース展開に、両チームからは大歓声。

運動会終了後はジנגスカンを囲み、農作業の状況や女性部活動などを話題に交流を深めました。

（石井 睦美）

# わが家のアイドル



端野地区・緋牛内  
貝沼 琉羽依ちゃん(1歳4ヶ月)

## おどかけが大好き!

お兄ちゃんの来人(らいと)くんとお姉ちゃんの梨楼(りる)ちゃんといっしょにお出迎えしてくれた琉羽依ちゃん。おそとに出かけるのが大好きで、上着を着て靴を履くと、早く外に出かけたくになります。「パパ」、「ママ」、「ワンワン」などの言葉も話せるようになりました。

家の中にいる時は一人でおもちゃで遊んでいます。「いつもお兄ちゃんとお姉ちゃんが良く面倒を見てくれます」とお母さん。写真を撮る時もお兄ちゃんとお姉ちゃんがあやすなか、可愛らしい表情をたくさん見せてくれました。来年から、お姉ちゃんと一緒に保育所に通う予定です。そんな琉羽依ちゃんにお母さんは、「このまま元気にすくすくと育ててほしいです」と話してくれました。

琉羽依ちゃんは端野地区・緋牛内の貝沼隼人さん、美保さん夫妻のお子さんです。(横田 佳織)

# Pretty Woman ウーマン

## ◆出身、ご自身の性格は?

訓子府の駒里が地元で、実家を継いでいます。性格はおしゃべりが好きで友達が得意ですが、サバサバしていて、つい言いすぎてしまうことがあるので、その都度反省しています。

## ◆お子さん・お孫さんは?

娘が1人と息子が2人います。孫は2才と7か月の男の子の2人です。我が家は私の両親も一緒に住んでいるので、7人家族・4世帯で暮らしています。私も主人も2人の孫にデレデレです(\*\_\*)

## ◆趣味は?

夏はガーデニングと両親が家庭菜園で作ってくれる野菜やメロンの収穫作業です。見る・食べる楽しみを満喫しています。冬は編み物が好きでよくやります。マフラーや帽子など、今はもっぱら孫用がほとんどです。また、カラオケも大好きで、私の子守唄で孫が寝てくれます♪

## ◆組織活動で楽しいこと、活動に対する抱負は?

大変なことも多いですが、行事が終わったあとのおしゃべりタイムが楽しいですね。それと他の支部の役員の方々とお友達になれたことも良かったです。抱負は、まず今年度予定している行事を1つ1つこなして行くことです。そして、部員の皆さんが無理せず、参加しやすい活動にしていきたいと思っています。



## 参加しやすい活動を

訓子府地区・駒里  
林 比呂子さん(53歳)

今回は女性部訓子府支部長の林さんに登場いただきました。(丸山 恵理)



## 天候や状況にあわせて

温根湯地区・平里  
牧野 文太郎さん(34歳)

# きたみらいの ホープさん

## ●趣味は?

映画鑑賞

## ●理想の女性は?

お互い尊敬し合える人

## ●農業で学び実感したことは?

作物を育てることは、子供を育てることに似ていると思います。

## ●今後の抱負は?

まだわからないことも多く勉強しなければと思います。毎年変わる気候や状況に合わせられる対応力を磨いていきたいです。

(梅澤 大)

文太郎さんは玉葱と畑作物を作付ける篤嗣さん、千代さんの長男で、就農して4年目になります。

## Q出身地は?

二人とも端野町出身です。

## Qいつ結婚しましたか?

昭和59年に結婚しました。今年で結婚30周年を迎えます。

## Qお付き合いしたきっかけは?

20代のときに青年団活動を通じて付き合い始めました。

## Q趣味・娯楽は?

2人そろってフィットネスクラブで体操をしています。冬場や時間のあるときに週2回程度行っています。

## Qこれからしたいことは?

次の11月で結婚30周年を迎えるので、時間ができたら旅行に行きたいです。

## Qお互いの感謝の言葉

・朗弘さん

いつもありがとう。元気に体操して、これからも若々しくいて下さい。

・明美さん

どうもありがとう。健康に気を付けて、これからも宜しくお願いします。

通いつけのフィットネスクラブにて撮影。

(高田 陽介)



# ながよし夫婦

## これからも二人で健康に

端野地区・川向

松下 朗弘さん(56歳)  
あき 明美さん(55歳)

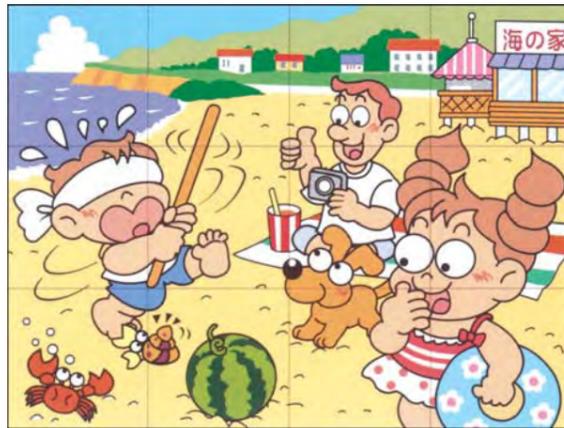
# まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



## 6月号クイズの当選者

6月号のまちがいさがしの答えは「3、6、8、9、11」でした。正解者29名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。

( )内は地区名

- ・木村 キミ子さま (温根湯)・田中 利枝さま (留辺蘂)
  - ・奥山 宏美さま (置戸)・岡嶋 厚子さま (相内)
  - ・黒川 百合子さま (訓子府)・川又 栄汰さま (訓子府)
  - ・武藤 光子さま (訓子府)・南 まゆみさま (訓子府)
  - ・中嶋 芹菜さま (北見)・鉄地河原 勲さま (北見)
- 以上の方々には、J Aきたみらい「牛すじカレー(2箱)」をプレゼントします。

## 応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、J Aきたみらい新商品の「焼肉のたれ」と「白花豆のドレッシング」をセットでプレゼントします。

**写** 真に写っているみなさんの表情がイイですね。そして、待望の雨が降りました。これで作物がぐんぐん成長してくれることを願っています。

(訓子府地区・武藤 光子さん)

私たちが皆さんの笑顔のおかげでいい広報紙になるので、ご協力に感謝しています。待望の雨で作物たちもいい表情ですね！今後にも期待しましょう (^ ^)

**今** 年の竹さしはとにか暑く、水分を多く取ったり昼休みを長く取りました。終わって一安心です。

(温根湯地区・長谷川 和子さん)

5月下旬は異常なくらい暑かったですよね。無事に終わって良かったです。今後も暑い日は無理なせず、工夫しながら乗り切りましょう！

**毎** 号まちがいさがし楽しみにしています。これからもよろしくお祈りします。

(匿名希望)

毎回挑戦いただきありがとうございます！これからも継続していきますので、よろしくお祈りします (^ ^)

**牛** すじカレーおいしいですよえー孫と一緒に食べたいです。

(訓子府地区・岡崎 静枝さん)

牛すじカレー美味しいですよ！今回は残念でしたが、エコーブや北見市内のセブンイレブンでも気軽にご購入いただけますので、そちらもよろしくお祈りします。

## 元気な先輩

相内地区・東相内  
きざぶろう  
小川喜三郎さん  
(82歳)



## 水泳が楽しみ

喜三郎さんは中学校に2年行った後、実家のお手伝いをし、その1年後、農業技術を学ぶべく、札幌の月寒学院(現在の八紘学園)に進学。酪農、畑作、加工までの一連の流れを学びました。当時、ビニールハウスのない時代に、ガラスの温室で花を育てることに魅力を感じていたそうです。卒業後は就農し、経営主になったのは37歳の時で、水稲、小麦、アスパラ、トマトを栽培していました。

6人兄弟だった喜三郎さんは「長男として兄弟5人を養っていかなくてはならなかったので、経営面積も伸ばせず苦しい生活でした」と当時の苦労を話してくれました。

経営を息子の博之さんに移譲してからは、妻の禎子さんと海外旅行に行き、たくさんの観光地を巡ったそうです。そのなかでも泊かけてカリブ海のクルーズに出かけたことが思い出深く、その場の出来事や思い出話を楽しそうにお話してくれました。

最近では15年前から妻の禎子さんと始めたプールが趣味で、仕事で溜まった疲れを癒しに毎日通って泳ぐことが楽しみと話してくれました。(梅澤 大)

## ほのぼのの広場

# 大きくなったら



置戸地区・境野  
井上 ころちゃん(11歳)  
大地くん(9歳)

## 保育士になりたい!(ころちゃん)

わたしは小さい子が好きなので、保育士になりたいです。今はバレーも習っていて、中学に入っても頑張りたいと思っています。

## 農家さんになりたい!(大地くん)

ぼくは大きくなったら、野球をしながら農家をやりたいです。冬に仕事が無いときには、スキーもたくさんしたいです。

井上英生さん、恵さんのお子さんです。取材後、すぐに野球をしに出かけていった元気な大地くん。しっかり者のお姉ちゃんは「ありがとうございました」とお礼を言ってくれました。(石井 睦美)

## 思い出の写真

「上手に焼けました」と、どこからともなく声が聞こえてきそうな一枚。ニュージーランドへの短期留学は15年前。帰国間近に送られたビッグならぬビッグなプレゼントがこの豚ちゃんです。

お世話になった農家はリンゴ畑30畝に綿羊100頭を飼養。夏時間のもと、何故か飼っている豚のエサやりで仕事を締め、暗くなるまで釣り三昧。

ここは天国なのかも、と思い始めたある日。オジサンが鉄砲を担いで言いました。「ちょっと早いけどクリスマスのお祝いだよ。」毎日エサをあげて可愛がっていた豚ちゃんが…と、多少は思わないでもなかったけれど、オジサンたちの熱気にほだされ一緒に手伝いました。

「出来上がった豚肉はちょっぴり硬かったけれど、とてもおいしかったです。」

いただきます、ごちそうさま。(山内 庸平)



▲パーティが待ちきれないオジサンたち。トラクターでパレットの高さを調節して豚の毛を剃っています。右下は現地地で仲良くなったジェフリー君。

## 育てて食べる

訓子府町・柏丘  
佐々木 利治さん(33歳)



# INFORMATION



▲無事に田植えを終えて笑顔の東相内小学校のみんな

5月27日に東相内小学校の5年生、28日に相内小学校の全校児童、29日に南小学校の5年生、6月2日に三輪小学校の5年生が田植えの体験学習を行いました。

今年初めて稲の植え付け体験を行った三輪小学校の児童は、先生方の手作り水田に入り、1人2本という限られた稲を大切に植えていく姿が印象的でした。毎年恒例となっている3校では、今年も泥んこまみれの子どもの笑顔と楽しそうな声の水田に響いていました。



▲ていねいに田植えを行う南小学校のみんな

## 笑顔と楽しそうな声の水田に響く！ 市内の4小学校で田植え体験



▲労働力の確保について話し合う青年部役員のみなさん

JAきたみらい青年部（米森弘部長）は5月30日、女性部（斉藤のり子部長）とフレッシュユミズ（坂下あゆみ会長）は6月4日に、センター事務所にて常勤役員との意見交換会を行いました。各組織の執行部とJA常勤役員が出席。毎回積極的な意見交換が交わされています。

労働力の確保や、資材店舗についての意見が挙げられました。フレミズからは、フレミズ未加入者への加入促進活動への支援・協力をお願いや、加工品について声が挙がりました。昨年、フレミズから挙げられた組織活動の際に必要な託児への支援については、常勤から大きな理解を得て、今年度から託児に対する助成をさせていただいている経過にあり、確実に組織の声は届いています。



▲フレミズへの加入推進活動について話し合うフレミズ役員のみなさん

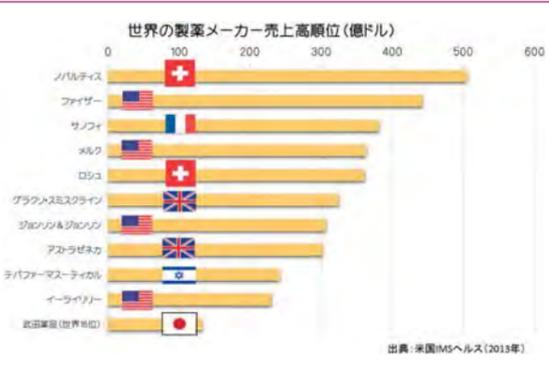
## 組合員三組織 “組織の声”を伝える機会 JA常勤役員との意見交換会

TPP「環太平洋パートナーシップ」は、太平洋に面する加盟国の国々の間で貿易の自由化を促進させて、国の経済を発展させるべく政府が進めている国際条約です。農業をはじめ工業製品、検疫など様々な分野で自由化の論議がなされています。

ここではTPP・規制改革が私たちの受けている医療にどのような変化をもたらす可能性があるか、お話を進めてみたいと思います。TPPだけでなく規制改革を併記したことには理由があります。現在論議が繰り返されている規制改革会議の項目中には、従来TPPで論議されようとしていた項目が組み込まれているからです。TPPの多国間協議のテーブルで緩和を目指すのではなく、日本国内で規制緩和を実施しようとするものです。私たちの受けている医療に直結する論点となりますので2回シリーズに渡って一緒に考えていきたいと思います。

その1. 医薬品のデータ保護期間とは？  
現在までに明らかになっているTPPの医療分野における内容は「知的財産分野」における新薬のデータ保護期間（先発権）に関する部分です。

データ保護期間というのは、薬事法によって再審査期間として規定されているもので、特許とは関係なく後発医薬品を承認することを制限する期間です。現在日本では8年、アメリカは5年、新興国も5年です。データ保護期間が終了するといわゆる後発医薬品（ジェネリック医薬品）の製造・販売が可能となります。これを日本とアメリカの間では10年とすることで大筋合意したとの公表がなされています（平成26年5月13日、新聞報道）。つまり、後発医薬品の発売を2年間先延ばしにすることになります。特許によっても守られますので、実際には市場に出たから8年で後発医薬品が発売となるケースはあまり多くなく、どのぐらいの影響が出てくるかは推測が難しい状況にあります。しかしながら、少なからず後発医薬品の発売が遅くなるというこ



根本 昌宏 氏 略歴  
＜所属＞  
日本赤十字北海道看護大学  
看護薬理学領域 准教授  
薬学博士 薬剤師  
＜出身＞ 茨城県水戸市  
＜略歴＞  
平成4年3月/北海道医療大学  
大学薬学部薬学科卒業  
平成6年4月/日本メジフィジ  
ックス株式会社 中央研究所薬  
理学研究員  
平成11年4月/日本赤十字北海  
道看護大学 助手  
平成14年3月/北海道医療大学  
薬学部薬学研究科薬理学専攻博  
士課程修了 薬学博士  
平成14年/ロンドン大学 セン  
トジョージ病院 生理学教室留  
学  
平成17年4月 現職

## 連載 TPP交渉について② TPP・規制改革と私たちの 医療を考える その1

とは、多数の新薬を開発・販売しているアメリカの大手製薬メーカーにとっては利益に直結します。なぜなら世界の製薬メーカーの売上高を見ると、トップ10に日本の製薬企業の姿はなく、一方アメリカは4社が入っているからです（図）。国内最大の製薬企業である武田薬品でも世界では16位という現状です。現在の日本の医療費は約38兆円でまもなく40兆円を超えると考えられています。医療費の中で薬剤費の占める割合はそのうち約4分の1を占め、薬剤費の上昇が医療費を牽引していると言っても過言ではありません。医療費を圧縮するべく進めている厚生労働省の後発医薬品の使用促進とは正反対の取り組みが、医薬品のデータ保護期間の延長と考えられます。

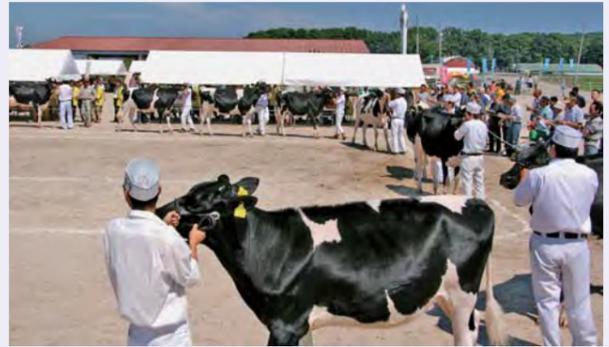
薬剤費は次々と登場する新薬によって上昇の一途をたどっており、これは日本の公的医療保険制度へ影響してくるでしょう。医療費の国民負担を増やす議論も出てくるでしょう。その医薬品の治療に頼らざるを得ない人たちの負担となって返ってきます。次回に挙げる混合診療との兼ね合いも問題です。私たちのいのちを守る安心・安全な医療に影響を及ぼす可能性が十分にあります。

約40兆円にもものぼる日本の保険医療費を見直すことは極めて重要です。しかしひとり一人の大切な命を社会全体で守るといえるのは、日本人として守り抜くことが必要なのではないでしょうか。医療における規制は、安心・安全を守るために作られてきたものがほとんどです。改革ありきではなく、安心・安全そしていのちを第一にした規制の見直しを進めていただきたいと思います。

今回は「その2. 混合医療の規制緩和とは？」を説明いたします。

# INFORMATION

- ◇アトラクション
- 1) ショウマンショー
    - 区分～小学3年生以下の部
    - 小学4年生以上の部
    - 中学生・高校生・実習生の部
  - 2) 各部予想コンテスト
  - 3) 最高位予想コンテスト
- ◇催事等
- 1) 出店コーナー
    - ・地場産F1牛肉・飲物・焼き物コーナー・果物・菓子類・その他
    - ・「きたみらい牛乳」限定50本@100円
    - ・きたみらい牛乳を使用した「くんねっぶりん」限定200個 @100円
    - ・デーリマン社（酪農用品販売）
    - ・きたみらいオリジナル商品の販売
  - 2) 特設コーナー
    - ・牛乳消費拡大キャンペーン
    - 「きたみらい牛乳」と「消費拡大オリジナルグッズ」を無料配布（先着200名）
    - ・「ポップコーン」の無料配布（先着200名）
    - ・バーベキュー広場
  - 3) お楽しみコーナー
    - ・スマートボール・三角くじ・ヨーヨー
    - ・福引抽選会（昼食会時）



▲昨年の会場の様子

JAきたみらい区域の酪農家の結束を高め、乳用牛の資質向上などを目的として開かれます。ご家族お揃いで来場されますようお願いしております。

- と き：7月19日（土）午前9時30分～
- と ころ：北見管内畜産総合施設（訓子府町実郷）
- 審査員：帯広市 酪農家 加藤 道博氏（共進会認定審査員）
- 共 催：きたみらい農業協同組合・きたみらい酪農振興協議会
- 協 賛：北見市・訓子府町・置戸町
- 後 援：ホクレン北見支所・オホーツク農業共済組合・網走農業改良普及センター ほか〈33団体〉

## JAきたみらい 乳牛共進会の開催のご案内

## JAきたみらい 加工商品の紹介

### 北見玉葱焼肉のたれ、新発売！

\*JAきたみらいでは、この度焼肉のたれを発売しました。「北見玉葱焼肉のたれ」は、玉葱の風味を生かしながらもあっさり食べやすく、子供から大人まで愛される味となっております。ジンギスカン、ステーキにも相性バッチリ。お肉料理のお供にはぜひ「北見玉葱焼肉のたれ」を。



▲北見玉葱焼肉のたれと使用例



▲お中元ギフトセットイメージ図

### お中元にはきたみらい加工品を！

\*きたみらいの人気加工商品をギフトセットにしました。お中元には、是非きたみらいのギフトセットをご利用ください。新商品「北見玉葱焼肉のたれ」はもちろん「玉葱醤油」「玉ねぎと牛すじのカレー」などの定番商品も入った魅力たっぷりの詰合わせは喜んでもらえること間違いなしです！

◆今回ご紹介した商品は、7月の取りまとめでご案内させていただきます。よろしくお願いたします。

## 第5回 理事会報告

6月27日、午前9時より第5回定例理事会が開催され、報告事項15件、議決事項8件が協議され、原案通り承認されました。

- 【報告事項】
- ①コンテナ等実地棚卸監査報告について
  - ②内部監査（無通告現金取扱全部門）について
  - ③組合員状況報告について
  - ④財務状況報告について
  - ⑤JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング報告」について
  - ⑥JAバンク基本方針に基づく経営状況（モニタリング）の報告について
  - ⑦作況調査（6月15日）報告について
  - ⑧「JAきたみらい自然災害等対応マニュアル」の設置について
  - ⑨政策提言等の組織討議について
  - ⑩議会に対する規制改革会議意見書の取扱いに関する意見書の提出依頼について
  - ⑪第11回きたみらい乳牛共進会の開催について
  - ⑫網走市小麦集出荷施設の概要について
  - ⑬北見地区中古農機・自動車展示即売会の開催実績について
  - ⑭道連の決算及び剰余金について
  - ⑮オホーツクJA専務常務会海外視察研修について
- 【議決事項】
- ①出資減額及び持分譲渡について
  - ②固定資産の取得について
  - ③諸規程の改正について
  - ④JAきたみらい畑地灌漑排水事業に対する支援要領の制定について
  - ⑤H27年産麦類北海道契約目標数量の設定に伴う本組合の対応について
  - ⑥H26年産農産・青果物取扱要領の設定について
  - ⑦H26年夏期地区別懇談会提出資料について
  - ⑧置戸町・訓子府町・北見市農業委員の推薦について

### お詫びと訂正

先月号（137号）のおひさまサラダで、次のとおり誤りがありましたので訂正のうえ深くお詫び申し上げます。P17 懇談会写真説明 端野 → 置戸

## 広報誌コンクール 当JAに“全道最優秀賞”授与

おひさまサラダ6月号で、全道広報誌コンクールで全道最優秀受賞を報告しましたが、6月17日開催のJA北海道中央会総会に先立ち、飛田会長から当JA西川組合長に賞状が授与されました。

組合員並びにご家族の皆さんをはじめ関係者の皆さんに報告するとともに、今後とも情報提供、取材等へのご理解ご協力のほどお願いいたします。



▲受賞される西川組合長

## 北見ほんちまつりのご案内

7月18日より第61回北見ほんちまつりが開催されます。18日午後6時30分からの舞踊パレードにはJAきたみらいも参加しますので是非ご来場下さい。



## 平成26年8月7日(木) 9時30分～13時

- ◆ 場所 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 北見農業試験場(常呂郡訓子府町字弥生52) 【入場無料】
- 農業試験場はどんなところ？
- と思っておられる方、ぜひご来場ください。
- ◎研究成果展示（品種・栽培技術のパネル）、畑作園芸相談コーナー（病害虫診断は現物を密封してご持参ください）、ほ場見学バスツアー、畑で働く農業機械展、試食コーナー（ポテトチップほか）、おもしろ体験コーナー（子供向け）、クイズラリー（挑戦した方には、いもなどをプレゼントの予定）、訓子府町の生産者による農産物販売（ファーマーズマーケット夢ミール）
- ※芝生で休憩できます。（シートはご持参ください）
- ◎問い合わせ先 同試験場 ☎ 0157-47-2146



▲昨年の会場の様子

## 北見農業試験場 公開デー2014

研究内容とは場を紹介いたします



## さっぱり親子のちらしずし

【エネルギー約382kcal(1人分)】

### 【作り方】

- ①米をとぎ浸水させてから、ざるに上げておく。
- ②塩鮭はこんがり焼き、粗くほぐす。キュウリは薄い輪切りにし、塩少々(分量外)を振り20分置いてから水気を絞る。たくあんは細千切り、大葉は千切り。
- ③炊飯器は通常より1割少なめに水を入れ、酒と昆布を加えて炊く。
- ④ご飯が炊けたら昆布を取り除き、飯台かボウルに移して合わせ酢を回しかけ、うちわであおぎながら切るように混ぜる。
- ⑤粗熱が取れたらキュウリ、たくあん、白ごまを混ぜ、鮭、しらす干し、大葉を加えてさっくり混ぜ合わせる。
- ⑥器に盛り付け、レモンライスとイクラを飾る。

### 【材料：4人前】

- |        |              |  |
|--------|--------------|--|
| 米      | .....2合      | 合わせ酢<br>酢.....大さじ4<br>砂糖.....大さじ1/2<br>塩.....小さじ1<br>レモン汁.....大さじ3 |
| 昆布     | .....5cm×5cm |  |
| 酒      | .....大さじ1    |  |
| 塩鮭     | .....2切れ     |  |
| イクラ    | .....15g     |  |
| キュウリ   | .....2本      |  |
| しらす干し  | .....20g     |  |
| たくあん   | .....20g     |  |
| 大葉     | .....10枚     |  |
| レモンライス | .....少々      |  |
| 白ごま    | .....10g     |  |

### メモ

夏には色鮮やかで、レモンの酸味が爽やかな、ちらしずしはほかほかでしよう。具材におしんこを刻んで加えると、味の深みが広がり、食感も楽しめます。ご飯を炊くときに昆布と酒を加え、水加減を控えめにするのがポイントです。



## 夏野菜のからし酢みそ添え

【エネルギー約140kcal(1人分)】

### 【作り方】

- ①ナスはがくに1周切込みを入れて取る。
- ②オクラは茎元側の茶色い部分を1周切り取り、表面を塩でこする。
- ③焼き網または魚焼きロースターを強火で熱し、ナスの皮が真っ黒に焦げるまで3~4回、回しながら焼く。
- ④鍋に湯を沸かし、塩のついたオクラとインゲンを2~3分、色が鮮やかな緑色に変わるまでゆでる。
- ⑤ナスは熱いうちに皮をむき、縦4つに切る。オクラは縦2つに切る。インゲンは長さを半分に切る。
- ⑥生ワカメは食べやすい長さに切る。ミョウガは千切りにする。
- ⑦からし酢みその材料を混ぜ合わせる。
- ⑧野菜と生ワカメを器に盛り付け、からし酢みそを添える。

### 【材料：2人前】

- |         |           |
|---------|-----------|
| ナス      | .....3本   |
| インゲン    | .....8本   |
| オクラ     | .....4本   |
| ミョウガ    | .....1本   |
| 生ワカメ    | .....20g  |
| からし酢みそ  |           |
| 白みそ     | .....大さじ2 |
| 酢       | .....大さじ1 |
| からし     | .....適量   |
| EVオリーブ油 | .....大さじ1 |

### メモ

香ばしく焼いたナス、さつゆでた色鮮やかなオクラとインゲン。いつもはしょうが醤油でいただく一品ですが、オリーブ油のこくをプラスした「からし酢みそ」を添えると、一味違うハーモニーを醸し出してくれます。旬の夏野菜をたっぷりお召し上がりください。

### 編集後記

- ・肌寒さを感じる日もあれば、37度を超える猛暑になり、体調を崩しやすいですが、組合員のみなさまにおかれましては体調管理に気を付けてください。
- ・去年の干ばつに比べ、今年は雨に恵まれ、このまま順調に豊作になれば良いと願うばかりです。
- ・組合員のみなさまにおかれましては、これから温度が上昇していく炎天下での作業のなか、水分や塩分の補給をしながら、熱中症や農作業事故に十分注意してください。(高田 陽介)

### JAきたみらい概要

(平成26年6月19日現在)

- ・組合員数(正) 1,765人
- ・組合員数(准) 5,759人
- ・組合員戸数(正) 1,157戸
- ・貯金 100,828百万円
- ・貸出金 21,522百万円
- ・出資金 5,019百万円

発行 きたみらい農業協同組合  
〒090-0813 北海道北見市中ノ島町1丁目1番8号  
TEL0157-32-8777(4)  
責任者/西川孝範  
編集者/宮農振興部:企画振興グループ